

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社グループホームコスモス	評価実施年月日	平成21年3月9日			
評価実施構成員氏名	東ユニット	構成員による評価				
	菊地 弘美		平成21/2/20			
	管野真由美					
	相馬美代子					
	中野 春美					
	嵯峨 小雪					
	澤田 初美					
	佐藤美紀子					
	富樫 晴美					
	福井由利子					
	福井由利子					
記録者氏名	福井由利子	記録年月日	平成21年2月24日			

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>基本的な考えを理念として作り上げている。</p>		<p>スタッフ全員理解を示している。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々スタッフは共にゆつくり、たのしく、いつしょに！理念の実践に向け取り組む方向づけをしている。</p>		<p>実践の認識を高めている。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ホールに掲示しており、家族、来訪者にはホームとしての取り組みを説明している。家族には入居契約時説明をし理解していただいている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の農家から米の買入れをしている。近所の方に蒔、ウド、野菜等届けて頂く機会が多い。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会は1所帯の住民以外は加入できない。老人会はない。等で会での活動はないが、祭り見学、子供神輿の来ホームあり、利用者を喜ばせてくれる。小学生との交流があり、運動会、学芸会、柿の木祭りへの参加、ホームへ小学生を招きフラダンス、食事を共にする。積極的に働きかけている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>自治会会長より地域での高齢者はその状況にはないときている。</p>	○	<p>自治会会長をとおして会への参加を依頼している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>改善を指摘された点は具体的に改善し活かしている。</p>	○	<p>前年度の外部評価でコスモス便り、面会簿についてプライバシーに関するため改善すよう指摘を受け、家族各位にアンケートを取り現状維持が17人中13人どちらでも良いが3名の回答で現状続行している。無くても良い1名</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議で焼肉パーティ等で親密を図れば、の意見が具体的にはあるが、利用者中心に考慮すればアルコール依存症で禁酒の方もいてやや困難な部分もある。サービス向上に繋げるまでには至らず、当ホームの1方通行の傾向である。</p>	○	<p>今後サービス向上にむけての意見をきたいする。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>必要、かつ適宜連携を図り、指導をうけている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>権利擁護、成年後見制度の研修を受け、実際に利用者家族に活用できるよう支援した。</p>	○	<p>必要性があれば支援する。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止の研修をうけている。虐待は無い</p>	○	<p>何気ない日常的「ケア」の中にスタッフと利用者間にケアのズレを生じ無いよう配慮心がける。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時の説明は十分行い、納得いただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在まで具体的な事柄はないが、あれば、受入れ反映させたい。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	暮らしぶりは月1回のコスモス便り、日常の様子報告。金銭は領収書とともに出納を明記し、身体の異状があれば家族とともに医師より説明をうけている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在まで具体的な事柄はないが、あれば、受入れ反映させたい。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度、または月の定例会議やカンファレンス時に聞く機会をもうけて反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	3:1の対応以外に必要な時間帯にパートの導入をしている。重度者の朝食介助を確保している。	○	今後利用者の重度化を考慮にいれ受入体制を整えてゆく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	スタッフ一同、利用者へ同等のケアを施している故ダメージは無と考える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	道の実践者研修会、HGCの研修会を交代でうけている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	広域連合会の勉強会に出席している。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	職員の慰労会をもっている。1時間は休息を確実にとるようこころかけている。	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	職員間の経験を活かして、相互間で指導、伝達し合い、向上につとめている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入所以前に訪問しなじみの関係を作りだしている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入所前に幾度か訪問して、家族との信頼関係をつくり、受け止める機会を多くしている。家族の思いを書きいただいている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホーム以外の対応も見極めていただいている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	最初は家族も共に。リビングで食事をして頂き安心感を持つていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員と共に洗濯たたみ、掃除、芋の皮むき、食器拭き、等行い会話を楽しみ、支えあう関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会を多く持つていただいている。花見、生すしを食べる会、焼肉パーティ、ぶどう狩りに参加していただいている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	個人の居室で家族と共に、食事をしたり、お茶をのみくつろいでいただいている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	キーパーソンの了解を得て、関係を維持して行けるようつとめている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者各人個性があり、職員の配慮による関り合い、支えあえるよう手出し、口出しを控え目にして、利用者同士の関係をみきわめている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院時は常に、お見舞いをし、退所されたかたにも季節の挨拶状を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を尊重している。無理じいはせず、本人に確認している。困難な事は、体調の具合を表現できない事。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族に本人の生活背景を書いていただいているが、入居以前の事柄を把握されている家族は少ない。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	現状を把握し、日々の状況のみ極め検討しケアプランをたて、総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の意見を確認している。関る職員でケアカンファレンスをユニットで行い介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	緊急時の介護計画を立てている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報を共有しながらいかしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	G・Hであり生活は多機能にいかされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアとしてフラダンスの先生が月2回きていただいている。	○	本人の要望があれば協働してゆく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	特に必要性は無いとおもわれる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	特に無い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的を受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ミネルバ精神科医との連携を持ち必要時受診している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師を確保している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	主治医の指示にて入院する例もあるが毎日看護師に確認している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に対する家族の意向、希望を入所時からききとり、書面確認している。医師からの説明を定期的に行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	高齢に伴い原疾患以外の疾病が誘発される。主治医との関わりを持ち指示を仰ぎ、家族の要望に応えるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人の納得、家族の了解をえた上でいダメージは防いでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーの確保はされている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	スタッフは利用者の希望にそえるよう、暮らしを出来るよう支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望にそい支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分のお気に入りの服をえらんだり、毛染めの色も家族の希望の色にそめている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	残食は殆ど無い。好みを十分に活かせる事は困難であるが、食材は新鮮である。食事、後片付けを楽しみにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	酒、タバコをたしなむ人は無、果物を喜ぶ。ウニを好む人には提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中はトイレでの排泄をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	朝寝をただいだけ、寝ている人、夜間職員と共に起きていてTVを見ている人、自室でTVを見ている等さまざまである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌の集い、フーセンバレー、での気晴らし、利用者により異なり、徘徊、昼寝、散歩、野菜きり、ドライブ、茶碗ふき、袋たたみ、袋折、雑巾縫い、等喜び行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失しても納得のいく範囲内での金額を持つていただいている。	○	お金に執着心の無い方は5割程であるが正当に使えるひと、使おうとする人は皆無といえる。パン売りに来ても店先でも買うという行為をしめさない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ぶらり出たがる人には共にでかける。寒い時期には出ようとしない。ドライブを希望すれば、出かけても利用者の方から帰ろうと言うことがある。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見 洞爺湖一周、稀府神社の森林浴、ひまわり畑、もみじ狩、ブドウ狩、洞爺湖公園 虻田道の駅へ、ウニ丼食べ、天候と相談しながら頻回に出かけている。	○	多くの利用者はドライブ等、当初は緊張で声も出ない人、職員にしがみついて震えていた人がいたが現在は、車中で鼻歌を歌い喜びを表すようになってきている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	している。		自らかけようとしない。希望があるときは、相手にダイヤルしてあげる。受話器をもてない人には、話が終わるまで、受話器を持つていてあげる。手紙については、書けない人には、本人の意向を組んで、代筆している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問してきた人にもよるが、居心地良く過ごして頂くよう工夫している。	○	本人が希望する、又訪問者の希望でホールであつたり、自室、リビングであつたり、コーヒーやお茶を提供している。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は無い。		身体拘束研修会に出席して研修をうけている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	当ホームは居室を出ると外へ出るまで、設備上3ヶのドアがある。中玄関の鍵は日中開放されている。出てゆく行く利用者はいない。	○	構造上鍵は現時点では問題は無い

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	している。		常に利用者の居場所の確認、徘徊している様子、食事、洗顔、入浴、トイレ使用時、レク参加等見守りしている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自分でハサミを持っていたが、不穩になると、職員が隠したと言うが自分で仕舞い込み、職員と共に探し出し、納得するが、預ける事拒否する。多人数で紙きりや、工作事は刃物、ハサミは完全管理している。漂白剤、包丁、等は夜間は物品庫に鍵を掛け管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	脚力が落ちていても、歩き出す人には横にスタッフが付き添い転倒防止をしている。誤嚥については、各人に合わせて、ミキサー食、刻み食、を提供。薬については、傍で飲み込み確認している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命の講習を受け、応急手当の訓練をうけている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	不慮の災害に対応の訓練をしても、地震、水害に関して各人〔近隣者〕自身もこらんとする。火災については独自の訓練、消防署の指導を受けている。常に備水はしている。		平成24年までのスプリングクラー取り付けに対応した
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	2階に上りついた場所に夜間、門扉を装備している。道の許可を得て設置して、転落防止についての説明。持ち込んだ食品については共に食した後、残物はお持ち帰りいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタル測定は毎日、体重測定は月/1回おこなう。体調、顔色の観察を常に怠らず、異状があれば、速やかに受診につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内容については個人記録にファイルされている。Drから増減指示あり時、緊急処方された場合は温度版にかきこまれている。症状の変化は体調、尿、便の確認を担当がおこなっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	根菜類、ひじき、わかめ等腸蠕動促進する食品を必ず食し散歩、ラジオ体操、フーセンバレーで体を動かし便秘予防につとめている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	3食後のうがい、歯磨き、口腔内の清拭は欠かさず行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	とくに食事に制限の無い方はご飯量160g、総カロリー1600を目安としている。糖尿病、心、腎臓病の方は医師の指示による。水分、食事の摂取量等は観察記録にのこしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	常に手洗い、うがいの励行。加熱して食す。マスクの使用、皮膚病予防にムトウハツブの使用をしている。皮膚乾燥予防にメンソレータムを塗布している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は必要に応じて買い入れするが、週2回、購入仕入れている。、食品庫、冷蔵庫にて鮮度をたもっている。調理器具は薄めた漂白剤で消毒を行う。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	駐車場は広く、花壇も造られ、玄関周りにはコスモスが自生し建物を華やかにしてくれる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	採光も良く、外部からの雑音も無く、作り物も利用者が、喜びかざっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールでソファーに腰をかけて、中むつまじく話し合う光景がみられる。小鳥をみて楽しんでいる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族の意向にそつている事が多いが、スペースはゆつたりと、好みにしつらえている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室には寒暖計を置き、暖房を調節している。湿度を保つため、洗濯物を掛けたり、バスタオルを濡らして調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりが取り付けられている。広い空間を自由に行き来している。床はクッション性があり、すべりにくい。安全性がたもたれている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者各人は自己の可能性を把握していて、すすんで、洗濯干し、茶碗拭き、掃除等自ら行う役割を持つ。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	大ホールがあり、誕生会、フラダンス、家族との集い、等で楽しんでいる。戸外は裏庭で焼肉、お好み焼き、駐車場では花火大会をたのしんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p>	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p> <p style="text-align: center;">②</p>	
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p>	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">①</p>	
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">①</p>	
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">①</p>	
<p>【特に力を入れている点・アピールしたい点】</p> <p>(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) ・ホームでの基本は健康である事を旨としている。栄養・運動・睡眠のバランスを保つ。個人(職員、利用者共々)いたわり合い、支え合う事。継続して清潔を保つこと。2ユニット同志、家族を交えて多目的に会を開催させる。</p>			